

社是：喜んでもらえる喜び己も喜びたい

経営方針と成長戦略

(招集ご通知5頁)



株式会社 TBグループ

経営理念と社名の由来、2022年度経営スローガン

＜経営理念＞

喜んでもらう喜び 己も喜びたい (FOR YOU)

＜社名 TBの由来＞

①トレンドイビジネス(TB)を目指します。

時流の「環境」「健康」「観光」のグッド3K市場でニッチトップシェアをとる事業を行います。

②トータルワンストップビジネス(TB)を目指します。

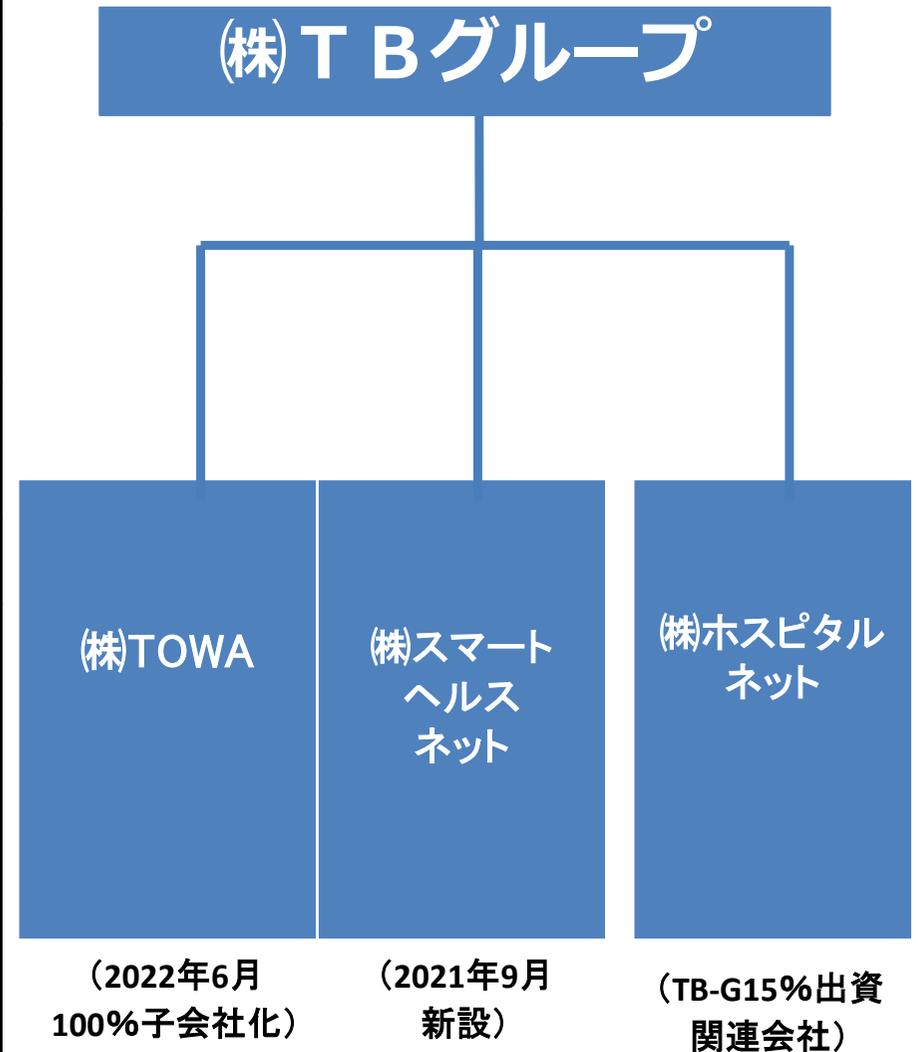
メーカーからソリューションビジネスまで、ワンストップで顧客満足の高いビジネスを行います。

＜2022年度 経営スローガン＞

**“ NEXTステージ(ハード&DX)を
プラスワン思考で本格化！ ”**

会社概要(2022年度)

会社名	株式会社TBグループ
代表者	村田 三郎
設立	1946年11月6日
本社所在地	東京都文京区本郷3-26-6
資本金	8億円
上場取引所	東京証券取引所スタンダード市場 (証券コード6775)
従業員数	連結138名、単体46名
事業内容	①LED関連事業 ②レジスターシステム関連事業 ③病院プリカ・ホスパッド関連事業 ④ホテルVOD・スマテレ関連事業 ⑤スマートヘルス関連事業(新規) ⑥キャッシュハイブリッド関連事業 (新規)



普及率ゼロ・業界初ビジネスの歴史

	創業~1970年代 ・コンピュータ発明 ・トランジスタ発明	1980年代 ・VTR発売	1990年代 ・携帯電話誕生	2000年代 ・プラズマTV登場 ・デジカメ登場 ・iMac/iPod登場 ・DVDレコーダ登場	2010年 ・iPhone/iPad登場 ・掃除ロボット・ルンバ登場 ・スマホ SNS	2020年 コロナ禍 超高齢化	成長戦略
--	-------------------------------------	------------------	-------------------	--	--	-----------------------	------

通信
ネットワーク

ビデオ
映像
↓
↓
デジタル
サイネージ

デジタル
サイネージ
↑
↑
LED表示機
&
ECO

レジスター
POS

電子マネー
&
ヘルスケア

1984年 漏れビデオクリーナー (累計800万本出荷)

1987年 オービカルブランド初代LED表示機
手書き入力専用キーボード付 (累計20万台出荷)

1987年 プリペイドカードシステム発売

1987年 K22EB 加算器をベースにした機械式レジスター

1987年 NT13 普及型レジスターヒット商品

1988年 ファックスアダプター
科学技術長官賞受賞

1988年 全郵便局2万5千台

1989年 3Dプロジェクター発売

1992年 多機能電話「キャップホン」

1995年 セキュリティー関連機器「スキップバックレコーダー」

1995年 ドライブレコーダーPAT取得

1999年 見えるラジオ「ハバラビジ」 NHK協業

2000年 超高輝度オレンジLED表示機「パデラ2000」

2000年 LEDライト事業

2009年 液晶+LEDハイブリッドデジタルサイネージ「BRID」

2011年 ソーラーパネル+LED表示機「ゼロデン」

2011年 多言語観光案内

2011年 新世代薄型面光源イルミフェイス (住友化学と共同開発)

レジスター・POS開発の歴史

電子マネー開発

LEDライト事業

電子マネー対応レジ

タブレットレジ

病院ICカード HosCa

病院コンシェルジュ端末 HosPad

ハード&DX

デジタルサイネージ

キッシュハイブリッド

スマートルスケア

TBグループの主要人脈

安藤 国威（あんどう くにたけ） 氏

<略歴>

昭和17年1月1日生まれ
昭和44年 ソニー株式会社入社
昭和54年 ソニー・プルデンシャル生命保険株式会社（現ソニー生命保険株式会社）代表取締役常務
平成6年 ソニー株式会社取締役
平成12年 ソニー株式会社 代表取締役社長兼COO
平成17年 ソニーフィナンシャルホールディング株式会社 代表取締役会長
平成23年 ソニー生命保険株式会社 名誉会長
(株)TBグループ 特別顧問

中澤 信雄（なかざわ のぶお） 氏

<略歴>

昭和19(1944)年8月7日生
1968年 4月 野村證券株式会社入社
1996年 6月 同社代表取締役専務(投資銀行兼国際金融)
1999年 6月 国際証券株式会社代表取締役社長
2002年 9月 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社代表取締役社長
2006年 4月 事業創造大学院大学学長
2010年 6月 東京コーパス総合研究所代表取締役社長（現任）
(株)TBグループ 顧問

中島 義雄（なかじま よしお） 氏

<略歴>

昭和17年3月30日生
平成5年 大蔵省（現財務省）主計局次長
平成12年 京セラミタ(株)代表取締役専務
平成17年 船井電機(株)取締役執行役員副社長
平成21年 セーラー万年筆(株)代表取締役社長
平成29年 (財)日本価値協創機構特別顧問（現任）
(株)TBグループ 社外取締役

第89期 経営方針と成長戦略

“Nextステージ(ハード&DX)をプラスワン思考で本格化！”

1) 攻めのDX化

- ① ネットワーク対応サイネージ／クラウド活用のASP事業／ITシステム企業とのシステム・ネット共創と協業です。
- ② 顧客(最終ユーザー B→B→C)とのネットDM・eコマースによる継続的収入(ストック)源の新規取り組みを始めます。
- ③ AI・IT企業との「共創」と「協業」・・・資本投資／業務提携をダイナミックに具体化します。

2) 守りのDX化

- ① 業務改革(テレワーク業務推進)・・・「働き方」改革によるR&D及び業務の効率化を図ります。
- ② 経営情報のリアルタイム化・・・グループ経営データの統一化・共有化でスピード判断と行動につなげます。
- ③ 全社員におけるDX活動のスキルアップ研修及び活用による働き方改革を行い待遇改善を図ります。

“ハード&DX”戦略はトレンドな流れで安易に「ものまね」、「後追い」思考でなく、「売り先」「売り物・システム」「売り方」にプラスワンを加え、独自性を鮮明にした新規のビジネススタイルを構築して「生き残り」そして「勝ち残り」ます。

第89期 経営方針と成長戦略

「一利を興す」前に「一害をなくす」半旧倍新が重要です。

今期は、前期より進めている(株)Mビジュアル／MAYUDAMA(株)の再編再構築及び「ハード売り切り」ビジネスから顧客密着型のソリューション／情報・コンテンツビジネスの本格化で黒字転換及び継続的成長を図ります。

①既存ビジネスは身の丈で収支イーブンとし、(株)スマートヘルスネットなど新規ビジネスは共創と協業で人・物・金を拡充し垂直立ち上げを図ります。

②コア商材は付加価値の高い戦略商品を新発売します。

新商品のネットワーク対応サイネージ／3D対応フルカラービジョン／クラウド対応セルフレジ等、当グループの強味と広告・ネット動画コンテンツ及びTOWAレジアプリ協業会社との業務提携を図り、他社にできないプラスワンの「DOOH」＋「キャッシュハイブリッド」の新市場を創り、高収益・継続型企业に変身します。

■ 主な導入事例紹介

LED/サイネージ分野-①

設置事例 西鉄福岡駅様

設置場所：福岡県福岡市
中央区天神 1-1

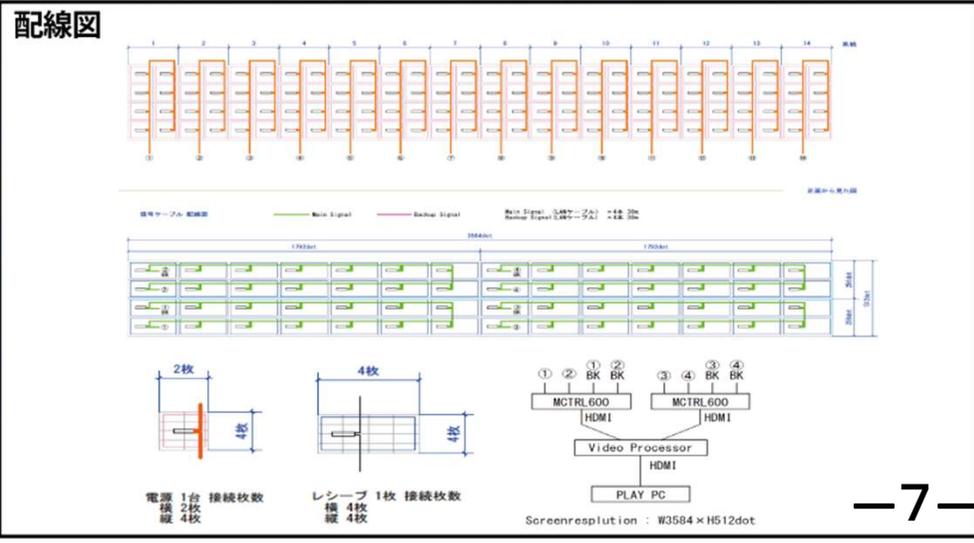
フルカラー LED ビジョン
Fullcolor LED vision

ピッチサイズ 4mm
外形サイズ 14,336(W)×2,048(H)mm

LED フルカラー
解像度 3,584×512pixels



コントローラ：MCTRL600



■ 主な導入事例紹介

LED/サイネージ分野-②

設置事例

株式会社USEN様
CAFE& BAR U

設置場所：沖縄県那覇市久茂地
2-2-2 タイムビル 1F

シースルーLEDビジョン

表示サイズ 2,000(W)※×2,500(H)mm
※左側：1,000mm / 右側：1,000mm
ピッチサイズ 3.9×7.8mm

階調数 フルカラー
解像度 512×320 pixels

TBグループ

コントローラ： U-SIGN
(MCTRL300 経由)



飲食経営者のDXサービス効果を実感する空間として機能します。

設置事例

蒲郡警察署様

設置場所：愛知県蒲郡市
緑町3-12

フルカラー LED サイネージ
Fullcolor LED signage

ピッチサイズ 6.67mm
表示サイズ 5,120(W)×960(H)mm

階調数 フルカラー
解像度 768×144 pixels



コントローラ：DCY326



◎2019年度～2021年度→LEDフルカラー映像化戦略完了!

◎2022年度→デジタルサイネージ『BRID』フルモデルチェンジ（5年ぶり）
→新たなロケーション開拓を実現する新ジャンル商品の投入!

デジタルサイネージ

自社開発新エンジン搭載とNEWデザイン!

- ①ディスプレイの大型化を実現
- ②インターネットブラウザ機能搭載 **NEW**
- ③ライブカメラ接続機能搭載 **NEW**
- ④スマホ連携機能の充実
- ⑤ギミックLEDエリア採用 **NEW**
- ⑥高性能LCD（Hi-Tni タイプ） **NEW** Etc.



ALL New NEW Design



LEDビジョン

①訴求効果抜群!

→3Dフューチャービジョンの商品化!



②新たなロケーションを開拓!

→シースルー窓ビジョン（景観条例回避）



テーマ：アライアンスによる販売スキームづくりで有力顧客へ!



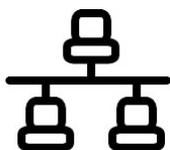
ハード



セルフレジシステム
CashHive
キャッシュhive



- 1、3種のタッチモニタ
- 2、2種の現金管理機



GLORY

株式会社インテック



DX



セルフレジアプリ (後会計)



キャッシュレス決済

vesca

remis^e

- ◎美容クリニック事例
 - 感染症対策・金銭管理
 - スタッフの疲労軽減
- ◎大手有力流通業界へ

スタートアップ店舗

店舗の健康管理・集客

- 店舗の財布だから、店舗の健康管理が出来る
- ・コンサル・販売施策
- ・DSの導入効果も見える



キャッシュレス決済事業者「カオスマップ」



リカーリングビジネス

GLORY



TOUCH REGI.
FT-800
オールインワンレジ

◎大手有力カーディーラー様へ!

(株)スマートヘルスネット

1) 設立	・ 2021年9月30日
2) 資本金	・ 8000万円（資本準備金2000万円）
3) 代表者	・ 代表取締役社長：村田 三郎
4) 主要株主	・ TBグループ（100%）
5) 事業内容	①AIスマタブ事業 ② メディエデュケーション事業（医師・看護師の働き方改革） ③スマートボード事業
6) 事業所、URL	東京本社：東京都文京区本郷3-26-6 NREG本郷三丁目ビル 関西営業部：大阪府北区西天満4-8-17 宇治電ビルディング URL: http://smart-health-net.co.jp



<設立目的>

2021年、日本の平均寿命は女性87歳、男性82歳となりました。しかし毎日を元気に暮らせる健康寿命は、女性75歳、男性73歳と女性で12歳・男性9歳の乖離があります。

これから団塊世代(1947年～1950年)が、後期高齢期(75歳以上)を迎えつつあります。医療費急増も重要国家課題ですが、個人にとっては“元気で暮らせる寿命”が最重要です。

(株)スマートヘルスネットは、健康寿命の延伸の手伝いをスマート(オンライン/AI)技術を駆使しビジネスやサービスを構築することでトッププラットフォーマーを目指します。

(株)スマートヘルスネット事業内容

①AIスマタブ事業

病院及びホテルのTVをIPTV化し、フリーWiFiサービスをセットして患者向けアメニティー（TV & ネット配信映画）の設置を実施し、既設のTVの買い替え需要期に入った3カ年（2022年4月より3年後に病院20万台、ホテル5万台、介護・在宅15万台）で合計40万台を配置し、超高齢化社会に向け在宅と病院・診療所のAIネットワーク化して、ヘルスケア分野のトッププラットフォームとなる。収益源は患者・利用者からの負担を極力軽減しバナー&アフィリエイト広告及びサンプル付eコマース（ビジネスモデル特許済み）としてロケーション先／オペレーターの増収を図ります。

② メディエデュケーション事業（医師・看護師の働き方改革）

入院患者向けのアニメ動画説明による低位レベルのインフォームド・コンセントサービスを始め医療関係者の業務軽減を図る。病院（薬処方）／患者（サプリメント）の飲み合わせデータベースを調剤薬局及びクリニックに配信し、関係者の業務軽減を図る。痴呆症予防コンテンツ／eスポーツ／ゲーム／電子図書館（漫画）の政策・企画・配信サービスを制作系及びゲーム関連企業とタイアップして病院／介護／在宅市場へリカーリング方式（使用料課金）で提供し、精神的健康寿命の延伸を図る。

③スマートボード事業

電子黒板＋IPTV＋カメラを一体化した電子ボードを、ドクターtoドクター等医療・教育及びホテル業務向けオンラインデバイスとして提供する。

ウェブカメラ、マイク一体化の「スマートボード」

病院や介護施設、在宅医療のデジタル化を進めるスマートヘルスネットは4月、ウェブカメラやマイクを一体化した電子黒板「スマートボード」の販売を開始する。病棟や看護室をオンライン会議で結び、迅速な情報共有と双方向のコミュニケーションを可能にし、医療サービスの効率化を後押し。併せて、患者・利用者に医療情報などを発信するタブレット端末の試験設置をスタートし、入院・入所環境の改善を図る。

同社は、デジタルサイネージや電子レジスターを展開するTBグループが昨年9月に設立した新会社。病院のプライベートカード式テレビ市場で約40万台の設置数を誇るグループの地盤を生かし、デジタル機器の普及によって病院から介護、在宅までつなぐネットワークの構築を目指す。

第1弾のスマートボードは、最大75センチの高精細ディスプレイに映したエックス線検査などの画像データに

医療サービスのデジタル化後押し



「スマートボード」は医師や看護師の迅速な情報共有を可能にする

対し、専用ペンやタッチパネル方式で文字や図形を書き込める。オンライン会議に必要なカメラやマイク、スピーカーも備え、リモートで書き込みを共有しながら意見を交わす環境を整える。加えて、QRコードを使ってスマートフォンなどに必要なカメラやマイク、スピーカーも備え、リモートで書き込みを共有しながら意見を交わす環境を整える。医師や看護師の養成への活用のほか、例えば救命救

急センターや病棟、看護室をスマートボードで常に接続。リモートでも急患の情報共有し、迅速に対応できる態勢づくりにつなげる考えだ。

一方、試験設置を始める患者・利用者向けタブレット端末「QR TV」は、インターネットテレビを内蔵し、入院・入所生活でのエンターテインメントを提供する。簡単な医療行為を説明するコンテンツも配信し、インフォームドコンセント(十分な説明と同意)の省力化を図る。退院・退所後も希望者には貸与し、リモートで病院や介護施設とつながる環境を整え、在宅医療の環境を改善する。

同社は令和7年までの3カ年でQR TVを病院向けに20万台、介護・在宅向けに15万台設置する方針。村田三郎会長兼社長は「在宅ネットワーク化し、健康寿命の延伸に貢献したい」と話している。



田三郎会長兼社長は「在宅ネットワーク化し、健康寿命の延伸に貢献したい」と話している。

(株)ホスピタルネット

<会社概要>

1) 設立	2000年1月6日
2) 資本金	1億円
3) 役員	<ul style="list-style-type: none"> 代表取締役会長：村田 三郎 代表取締役社長：武田 利信 取締役：山崎 充彦 取締役：安本 光治
4) 主要株主	<ul style="list-style-type: none"> (株)TBグループ シダックスフードサービス(株) 日本金銭機械(株)
5) 事業内容	<p>病院をホテルのように快適に！を経営理念として展開している。</p> <p><TVカードシステム></p> <ul style="list-style-type: none"> プリペイド方式テレビカードシステム FeliCa ICカードシステム (HosCa) <p><院内コンシェルジュシステム></p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末 (HosPad) 医療機関向け 外来呼び出しシステム 健診システム ママ友チャンネル <p><IoTヘルスケア></p>



HosPad

呼出システム

スマートな検査フローを実現する 健診誘導システムで 受診者・施設両方にメリット



受診者ごとの検査予定や検査の説明などが1台の端末で確認できる



スタッフ側のシステム画面からは、現在の混雑状況をリアルタイムで表示



端末上に通知し空いている検査への誘導も可能

広範な機能を通して待ち時間の解消や手間の軽減などを実現
「健診誘導システムHosPad®」の特徴は、各受診者の端末とスタッフの端末が連動し、待ち時間の短縮や医療安全などに寄与、スムーズな健診を実現できる点だ。たとえば、従来は紙ベースだった問診票などの資料はすべて端末内に搭載しペーパーレス化。タッチパネルで入力するため、手書きによる記入ミスや漏れを防げる。また問診は、当日貸与される専用端末のほか、事前にスマホから入力することも可能だ。

「患者さんの端末では当日のオプション検査の案内や問い合わせにも対応するほか、書籍・雑誌が読めるアプリも搭載している。待ち時間を持って余すこともありません」と、MS営業本部次長の松下智久氏は説明する。

一方スタッフ側は、各検査フローの混雑状況や受診者ごとの待ち時間などをリアルタイムで確認できる。混雑状況に応じて、自動または手動で受診者へ通知を出し、空いている検査へ誘導すること、待ち時間を緩和。さらに松下氏は、「受診者の端末に表示されているバーコードを認証して本人確認をするため、万が一端末の取り違いがあっても検査を行う前に防止できます」と話す。

そして、検査結果は随時受診者の端末内に反映され、過去の検査結果との比較ができるほか、専用アプリを経由して自宅のPC・スマホからも閲覧できる。

こうした充実の機能によって受診者満足度を高めるばかりか、健診施設側にとっても、受診者数アップ、効率性の向上、オプション検査の申込率のアップなどの費用対効果が期待できるといいます。

「導入の際には、ヒアリングのもと各健診施設に最適化したシステムを構築。リハールによる院内オペレーションの確認も実施したうえで、約6カ月で本格運用となります」（松下氏）

今後同社では、全国の健診施設を中心に同システムを提供し、今後3ヶ年累計で約50施設、約10億円の売上を目指す。武田氏は、「スマホによる事前問診や自動誘導システムなど、本システムの一部機能の単体導入にも対応していく次第です。将来的には初診・再診率アップのサポートにつなげたい」と、今後の抱負を語った。受診者・施設がともにメリットを享受できるだけに、さらなる利用拡大が期待される。

2000年の創業以来、病院向けカード式テレビシステムやICカードソリューションといったサービスを展開してきた、株式会社ホスピタルネット。約4年前からはiPadに自社開発のアプリ・コンテンツを搭載した新サービス「HosPad®（ホスパッド）」の提供を開始。なかでも近年は、健診誘導システムに注目が集まっている。



「当初は産婦人科向けに、患者さん向けのメッセージ送信、スケジュール・予約管理といったアプリ、妊娠・出産・育児コンテンツを搭載した「HosPad® マタニティ&ウイメンズ」をリリースしました。現在は、約200施設でご利用いただいています」と、代表取締役社長の武田利信氏は話す。「HosPad®」ではほかにも、さ

入院患者や施設を支える数々のソリューションを提供
「For You（善んでもらう善び）」を社是に、病院向けに数々のソリューションを展開する、株式会社ホスピタルネット。入院病棟でおなじみのカード式テレビシステムは、全国90万床で導入されているうちおよそ半数が、同社製というから驚きだ。また、ベッドサイドのシステムファンチャー、ICカード職員証など、多くの病棟周辺システムを手がける。

そんな同社が約4年前から新たに取り組んでいるのが、iPadに自社開発のアプリ・コンテンツを搭載したタブレット端末システム「HosPad®（ホスパッド）」（以下、HosPad®）だ。

まだまだ自社開発アプリ・コンテンツを展開。たとえば、1000台を導入する北里大学病院では、入院案内や手術・検査の詳細な説明コンテンツ、また、画面上で商品を選択し院内の売店へ注文できるという売店発注システム、患者向けのアンケート機能などを使い、病院経営の効率化に寄与している。

そして、約2年のテスト運用を経て、18年からリリースしたのが、「健診誘導システムHosPad®」である。19年春時点で神奈川県健診センター「カラダテラス海老名」をはじめ、全国で導入・問い合わせが増えているという。

武田利信代表取締役社長（右）と松下智久MS営業本部次長（左）





病院・クリニックの電子書籍は ホスピタルネットにお任せ下さい！

- ✓ 雑誌700誌・マンガ40,000冊が読み放題
- ✓ 週刊誌・月刊誌は常に最新号が読める
- ✓ 診察や検査の待ち時間対策に
- ✓ 顧客満足度向上のサービスとして
- ✓ コスト節約・省スペース・感染予防対策
- ✓ 書籍の入れ替えや管理の手間削減
- ✓ Wi-Fi工事も請け負います



ビューン
読み放題スポット

株式会社ホスピタルネットは
サービス提供元です。

ビューン社と協業



施設のWi-Fi に接続するだけで読み放題